

## ナガヒラタムシ

*Tenomerga mucida*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ナガヒラタムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長 9 ~ 17mm。体は赤褐色で背面は暗褐色の小顆粒と鱗毛に覆われる。前胸背板の前角は鋭角。幼虫は朽ち木に生息し、朽ち木を食べる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島、伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州; シベリア、フィリピン、ハワイ諸島(移入)

### 【小笠原諸島における生息環境】

詳細な生息環境は不明である。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

幼虫の食べ物や生息場所となる朽ち木の確保が望ましい。

### 【関連文献】

上野俊一ら(編著), 1985.



(執筆: 苅部治紀)

## オガサワラハンミョウ

*Cicindela bonina*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハンミョウ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長 10 ~ 13mm。上唇は中央部が小さく突出する。前胸背板の縮刻は横じわ状とはならない。乾性低木林の裸地に生息する。8 ~ 10月に出現する。

### 【分布の概要】

小笠原諸島。父島では絶滅した。

### 【小笠原諸島における生息環境】

乾性低木林に生じた裸地に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

裸地に侵入したモクマオウ、リュウキュウマツの繁茂により地表を被覆する落葉が増加し、幼虫の巣穴環境が奪われている。現在これら外来植物の駆除による生息地の再生が進められている。父島ではオオヒキガエルによる捕食も影響を与えた可能性がある。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 苅部治紀, 2009.



(執筆: 苅部治紀)

## ムニンミズギワゴミムシ

*Tachyura boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
オサムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長 2 ~ 3mm。全身光沢のある茶褐色。頭部の微細点刻は明瞭で等大。触角第2節は第3節よりわずかに長い。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

詳細な生息環境は不明である。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではオオヒキガエルによる捕食の影響を受けている可能性がある。

### 【関連文献】

Nakane, T., 1979; 松本慶一, 2001.



©SEHU, Hokkaido Univ.

(執筆: 苅部治紀)

## オガサワラクチキゴミムシ

*Morion boninense*

コウチュウ目(鞘翅目)  
オサムシ科

小笠原諸島 **EN**

環境省 **VU**

### 【形態・生態】

体長 15～17mm。全身光沢のある黒色をしている。後翅は短い。湿性高木林の倒木や立ち枯れした木などの樹皮下や腐朽部に潜む。幼虫期の生態などは不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島の湿性高木林は、戦前の開拓時代に破壊されたが、その後は回復が進み、良好な状態で保たれている場所が多かった。しかし、近年アカギの侵入による劣化が顕著になっており、生息環境が破壊されている。現在アカギの駆除事業が進行しているが、在来植物が優占する樹林の保護育成が課題である。

### 【関連文献】

Kasahara, S. & M.Sato, 1990; 松本慶一, 2001.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラホソモリヒラタゴミムシ

*Colpodes boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
オサムシ科

小笠原諸島 **EX**

環境省

### 【形態・生態】

体長 8.5～9.3mm。オガサワラモリヒラタゴミムシ *C. laetus* に似るが、触角がより太く短いことや上翅の左右の側縁が平行であることから区別される。生態に関する情報はない。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

生息環境についての情報はないが、同属の近縁種と同様に樹上性であったと考えられる。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1978年に採集された個体に基づいて1991年に記載された種であるが、それ以降の記録が知られていないため、絶滅したと考えられる。減少要因はグリーンアノールによる捕食の影響であると考えられている。

### 【関連文献】

Kasahara, S., 1991; 松本慶一, 2001.

(執筆: 苅部治紀)



©尾園 暁

## ハハジマモリヒラタゴミムシ

*Colpodes yamaguchii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
オサムシ科

小笠原諸島 **NT**

環境省 **EN**

### 【形態・生態】

体長 9～11mm。全身暗赤褐色で金属光沢はない。頭部の眼上毛および前胸背板の側縁毛は、それぞれ前方の1対を欠く。湿潤な樹林の浸み出し水があるような場所の石下などで見られる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

溪流沿いの石の下などに生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島では主にオオヒキガエルによる捕食の影響によって減少したと考えられている。生息地への外来植物の侵入も悪影響を与えている可能性もある。

### 【関連文献】

Kasahara, S., 1991; 松本慶一, 2001.

(執筆: 苅部治紀)



## オガサワラアオゴミムシ

*Chlaenius ikedai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
オサムシ科

小笠原諸島

CR

環境省

EN

### 【形態・生態】

体長9～11mm。緑色がかった暗銅色で、上翅端に黄褐色の小斑を持つ。触角や脚は黄褐色。沢沿いの源流部の落葉下などで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林内の落葉下で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島では主にオオヒキガエルの捕食によって減少したと考えられている。一方、これまで記録のなかった父島の属島および母島の属島における調査で新たに記録されたが、個体数は非常に少ないことが分かっている。

### 【関連文献】

Kasahara, S., 1991; 岸本年郎, 2009.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星  
・地球博物館

## キガシラアオアトキリゴミムシ

*Calleida lepida*

コウチュウ目(鞘翅目)  
オサムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長10～11mm。頭部、前胸背板は赤褐色。腿節端と触角は黒味を帯びる。前胸背板側縁の上半部は幅広い。上翅の条溝の点刻は微細。一般に樹上性だが、小笠原諸島における生態は不明。

### 【分布の概要】

小笠原諸島、本州、四国、九州; 朝鮮半島、中国、台湾

### 【小笠原諸島における生息環境】

近年の記録はなく、生息環境も不明である。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

減少しているとすれば、その要因としてグリーンアノールの捕食が疑われる。

### 【関連文献】

上野俊一ら(編著), 1985; 松本慶一, 2001.

(執筆: 苅部治紀)



## オガサワラセスジゲンゴロウ

*Copelatus ogasawarensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゲンゴロウ科

小笠原諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

体長4～6mm。前胸背板は黒褐色で側縁は黄褐色。上翅は黄褐色で中央が黒味がかかる。一時的なものを含む水域に広く見られる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

一時的なものを含む水たまりや流れの淵状の部分に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

近年の干ばつ、在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

上野俊一ら(編著), 1985; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星  
・地球博物館

## コガタノゲンゴロウ

*Cybister tripunctatus orientalis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゲンゴロウ科

小笠原諸島 **EN**

環境省

**VU**

### 【形態・生態】

体長 24 ~ 27mm。背面は暗緑色で鈍い光沢を帯び、腹面は黒褐色。上翅に3点刻列があるが、まばらで不明瞭。池沼に生息する。

### 【分布の概要】

小笠原諸島、本州、四国、九州、南西諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

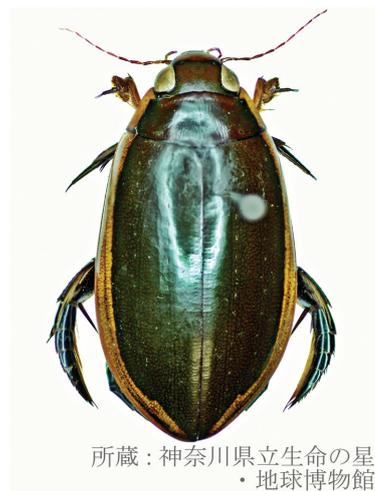
硫黄島では数箇所の池沼に見られる。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

開発が本種の生存に影響を与える可能性がある。

### 【関連文献】

上野俊一ら(編著), 1985; 森正人・北山昭, 1993



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆：苅部治紀)

## オガサワラチビヒラタエンムシ

*Platylomalus kusuii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
エンムシ科

小笠原諸島 **DD**

環境省

### 【形態・生態】

体長 1.9 ~ 2.6mm。全身黒色で光沢があり、口器、触角、脚は赤褐色。上翅の前角に大きな点刻があり、中胸腹板に横条線を欠く。詳しい生態は不明だが、枯枝や倒木の樹皮下から5~6月に採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

不明である。

### 【関連文献】

Ôhara, M., 1994; 苅部治紀ら, 2004.



©SEHU, Hokkaido Univ.

(執筆：苅部治紀)

## シマツチケシハネカクシ

*Dictyon insulicola*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハネカクシ科

小笠原諸島 **NT**

環境省

### 【形態・生態】

体長 1.1 ~ 1.3mm。赤褐色から濃赤褐色で、触角、脚は淡色。体型は泪型。触角は太短く先端4節は棍棒状。上翅の後端にえぐれがあり、後翅は退化している。林床の土壤中で小型の動物を捕食していると推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

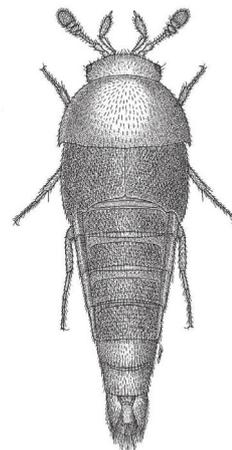
原生林やよく発達した二次林の湿潤な林床の土壤中に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

人為的にかく乱された樹林や、アカギ、ギンネム、モクマオウなどの外来植物が優占する樹林には生息しない。父島からの記録がなく、父島からは既に絶滅した可能性がある。

### 【関連文献】

Kishimoto, T., 1999a; Kishimoto, T., 1999b.



Kishimoto (1999a) より転載

(執筆：岸本太郎)

## オガサワラネブトクワガタ父島列島亜種

*Aegus ogasawarensis chichijimaensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
クワガタムシ科

小笠原諸島 NT

環境省

### 【形態・生態】

体長 13 ~ 24mm。名義タイプ亜種との区別点はわずかであるが、♂は大顎がより太く湾曲が強く、先端がとがること、眼縁突起が顕著であることなどである。倒木に見られる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

赤腐れをした倒木に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島での生息地は限定される。生息に適した倒木の確保が望ましい。

### 【関連文献】

細口政詞, 2000; 苅部治紀ら, 2004.



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆：苅部治紀)

## オガサワラチビクワガタ名義タイプ亜種

*Figulus boninensis boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
クワガタムシ科

小笠原諸島 NT

環境省

### 【形態・生態】

体長 17 ~ 20mm。髯島亜種に比べると眼縁突起周縁の張り出しは弱く、体色は褐色がかかる。倒木に見られる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

近年父島では激減している。母島では普通に見られ、外来植物のアカギも食べる。属島ではモクマオウなどの外来植物により、生息地である樹林の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 藤田宏, 2010.



(執筆：苅部治紀)

## オガサワラチビクワガタ媒島亜種

*Figulus boninensis karubei*

コウチュウ目(鞘翅目)  
クワガタムシ科

小笠原諸島 CR

環境省

### 【形態・生態】

体長 19 ~ 20mm。名義タイプ亜種に比べると眼縁突起周縁の張り出しは強く、体色はより黒色が強い。倒木に見られる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

媒島はノヤギの食害によって生息地である樹林が衰退している。夏期の乾燥も顕著で、生息に適した環境はごく一部しか残っていない。早期に在来植物が優占する樹林を再生することが望まれる。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 藤田宏, 2010.



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆：苅部治紀)

## オガサワラムツボシタマムシ名義タイプ亜種

*Chrysobothris boninensis boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
タマムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長8～11mm。体は光沢のある銅紫色で、複眼の周縁部、前胸背板の側縁部、上翅の基部は金緑色。上翅に金色の凹紋が6個ある。前胸背板に弱い横皺が多数入る。幼虫はシャリンバイを食べる。6月の採集記録がある。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

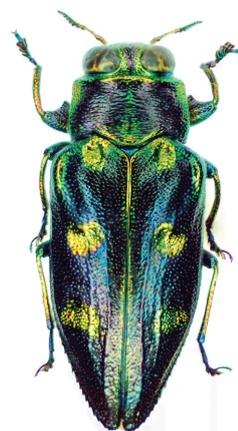
### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島ではグリーンアノールの捕食の影響を強く受け、近年の記録を欠くため、絶滅した可能性が高い。また、全域で外来植物の侵入により、生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

Kurosawa, Y., 1975; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星  
・地球博物館

## オガサワラムツボシタマムシ母島亜種

*Chrysobothris boninensis suzukii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
タマムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長8～11mm。名義タイプ亜種との区別点は、点刻が弱い、前胸背板が平滑で横皺がない、より青みが強いなどといった点である。幼虫はシャリンバイを食べる。6月の採集記録がある。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島ではグリーンアノールの捕食の影響を強く受け、近年の記録を欠くため、絶滅した可能性が高い。また、属島では健在だが、生息地である樹林への外来植物の侵入が著しい島もあり、食樹の衰退も懸念されている。

### 【関連文献】

Kurosawa, Y., 1975; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星  
・地球博物館

## オガサワラタマムシ

*Chrysochroa holstii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
タマムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

体長22～35mm。金属光沢のある緑色で、上翅端は紅色。上翅には明瞭な縦隆起条がある。ムニンエノキを食べ、成虫もムニンエノキの葉上に見られる。6～8月に出現する。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

大型種であるため、グリーンアノールの捕食の影響は軽微であると思われる。近年ムニンエノキの枯死が目立っている。

### 【関連文献】

黒澤良彦ら(編著), 1985; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 苅部治紀)



## ツヤヒメマルタマムシ

*Kurosawaia yanoi*

コウチュウ目(鞘翅目)  
タマムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長5～8mm。頭部と胸部が緑色から青緑色で上翅が暗銅色から紫銅色をしている個体が多いが、体色の変異が大きく、母島では全体的に青銅色の個体が見られる。幼虫はシャリンバイを食べ、成虫はヒメフトモモの葉に集まる。6～7月に出現する。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島においてはグリーンアノールの捕食の影響を強く受け、近年の記録を欠き、絶滅した可能性が高い。また、全域で外来植物の侵入により、生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。生息には幼虫の食樹と成虫の食樹が揃うことが必要である。

### 【関連文献】

黒澤良彦ら(編著), 1985; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## ツマベニタマムシ名義タイプ亜種

*Tamamushia virida virida*

コウチュウ目(鞘翅目)  
タマムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長13～20mm。全身緑色で上翅端のみ紅色。前胸背板の正中線に隆起線はなく、かすかな縦溝が前縁付近に見られ、側隆起線は鋭く完全。第1、2腹節の会合線の中央部に小さな切れ込みがある。上翅は先端付近に鋸歯が目立ち、先端がとがる。幼虫はシャリンバイを食べ、成虫はヒメフトモモの葉に集まる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島においてはグリーンアノールの捕食の影響を強く受け、近年の記録を欠き、絶滅した可能性が高い。また、全域で外来植物の侵入により、生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。生息には幼虫の食樹と成虫の食樹が揃うことが必要である。

### 【関連文献】

Kurosawa, Y., 1977; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 苅部治紀)



## ツマベニタマムシ聳島亜種

*Tamamushia virida fujitai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
タマムシ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長13～20mm。名義タイプ亜種と形態的な違いは見られないが、体色が暗緑色であることで明確に区別される。幼虫はシャリンバイを食べる、成虫はヒメフトモモの葉に集まる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

聳島はノヤギの食害によって生息地である樹林が著しく衰退している。夏期の乾燥も顕著で生息に適した環境は沢刈などごく一部しか残っていない。早期に在来植物が優占する樹林を再生することが望まれる。生息には幼虫の食樹と成虫の食樹が揃うことが必要である。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; Ohmomo, S. & H. Karube, 2004.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラナガタマムシ

*Agrilus boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
タマムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

DD

### 【形態・生態】

体長6～10mm。体は銅金色。前胸腹板突起は細く、先細りとなる。上翅に斑紋はない。ムニンエノキを食べる。6月の採集記録がある。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島においてはグリーンアノールの捕食の影響を強く受け、近年の記録を欠き、絶滅した可能性が高い。また、全域で外来植物の侵入により、生息地である樹林や食樹の衰退が心配されている。

### 【関連文献】

黒澤良彦(編著), 1985; 苅部治紀ら, 2004。

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## シラフオガサワラナガタマムシ

*Agrilus suzukii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
タマムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

DD

### 【形態・生態】

体長4～6mm。体は銅金色。上翅には銀灰色毛からなる不明瞭な斑紋を有する。センダンを食べる。6～7月の採集記録がある。

### 【分布の概要】

小笠原諸島。父島、母島では絶滅した可能性が高い。

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島においてはグリーンアノールの捕食の影響を強く受け、近年の記録を欠き、絶滅した可能性が高い。また、全域で外来植物の侵入により、生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

Kurosawa, Y., 1985.

(執筆: 苅部治紀)



©尾園 暁

## オガサワラサビコメツキ

*Lacon boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
コメツキムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

体長15～19mm。前頭部は三角形に窪む。前胸腹板突起は前脚基節腔を越える。詳しい生態は不明であるが、同属の種は幼虫が枯木に生息し捕食性であることから同様と推測される。日中は樹皮下に潜む。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 榎原寛・大平仁夫, 2005。

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## ホソクシヒゲコメツキ

*Tetrigus fujitai*

コウチュウ目(鞘翅目)

コメツキムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長約 18mm。触角は櫛歯状。前胸腹板突起の先端は丸く、前胸背板側縁に沿う小溝はない。詳しい生態は不明である。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

Ôhira, H., 1978; 黒澤良彦ら(編著), 1985.

(執筆: 苅部治紀)



## オガサワラクシヒゲコメツキ

*Tetrigus kusuii*

コウチュウ目(鞘翅目)

コメツキムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 19~28mm。前頭部は平ら。触角は櫛歯状。幼虫は枯木の木質部に生息し、カミキリムシなどの幼虫や蛹を捕食する。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 榎原寛・大平仁夫, 2005.

(執筆: 苅部治紀)



©尾園 暁

## オガサワラヒラアシコメツキ

*Ischiodontus langfordi*

コウチュウ目(鞘翅目)

コメツキムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 8~12mm。体は光沢のある黒色で黒色の毛が生える。触角と脚は黄褐色。前胸腹板突起は太短く、先端付近に段刻がある。脚の第2、3跗節の先端下側は大きく伸長して膜状となり、目立つ。幼虫は枯木の中でカミキリムシやクワガタムシの幼虫を捕食することが知られている。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

大平仁夫, 1998; 榎原寛・大平仁夫, 2005.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## ツヤチャイロコメツキ

*Haterumelater bifoveolatus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
コメツキムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長8～10mm。体は光沢のある黒色。前胸腹板突起は前脚基節腔を越える。上翅の点刻は細かく、条溝は細い。詳しい生態は不明である。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 楨原寛・大平仁夫, 2005.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラホソキコメツキ

*Megapenthes kusuii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
コメツキムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長4～6mm。体は光沢の少ない黄褐色。頭部は黒褐色で、前胸背板や上翅も暗い色となる。体型は円筒状。詳しい生態は不明である。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 楨原寛・大平仁夫, 2005.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラツヤケシコメツキ

*Megapenthes makiharai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
コメツキムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長6～8mm。オガサワラホソキコメツキと形態的に似るが、より大型で体色が濃いことから区別される。詳しい生態は不明である。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

楨原寛・大平仁夫, 2005.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 森林総合研究所

## オガサワラアシブトコメツキ

*Podeonius yamamotoi*

コウチュウ目(鞘翅目)

コメツキムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長7～9mm。体は光沢のある黒色で、触角と脚は黄褐色。脚の第3跗節の先端下側は伸長して膜状となる。詳しい生態は不明である。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

大平仁夫, 1996; 榎原寛・大平仁夫, 2005.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 森林総合研究所

## オガサワラクシコメツキ

*Melanotus boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)

コメツキムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長4～5mm。体は光沢のある黒色から黒褐色で、触角と脚は赤褐色。台湾産の *M. tamusuyensis* に似るが、触角がより強い鋸歯状であること、前胸腹板突起の彎曲は弱いこと、上翅の条溝がより深く粗いことなどから区別される。詳しい生態は不明である。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

Ôhira, H., 1974.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラホソクシコメツキ

*Neodiploconus boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)

コメツキムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長8～10mm。体は光沢のある黒色から黒褐色で、触角と脚は赤褐色。前胸腹板突起は前脚基節腔を越え、先端付近に段刻がある。同属の種では幼虫が腐朽の進んだ朽ち木のシロアリの巣内から見つかったことから、同様の環境に生息すると推測される。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

小笠原諸島に広く分布しているが、在来植物が優占する樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

榎原寛・大平仁夫, 2005; 榎原寛・大平仁夫, 2006.

(執筆: 苅部治紀)



© 尾園 暁

## キマダラコメツキダマシ

*Subprotelater hisamatsui*

コウチュウ目(鞘翅目)  
コメツキムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長約 11mm。黒褐色の地に黄色い小斑を持ち、全身軟毛で覆われる。体型は細長く、上翅に点刻列を持つ。前胸背の後縁は直線状で後縁に沿って横溝をそなえる。触角は 10 節で先端は棍棒状。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来樹が優占する発達した樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、弟島、母島からのわずかな記録しかなく、また、父島では近年の記録がない。父島、母島ではグリーンアノールによる捕食の影響が懸念される。

### 【関連文献】

Nakane, T., 1987; Suzuki, W., 2002.

(執筆: 岸本年郎)



©SEHU, Hokkaido Univ.

## ムニンヒメカッコウムシ

*Tilloidea munin*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カッコウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 6.0~10.0mm。黒藍色で上翅後半部に 1 対の黄白色の特徴的な斑紋を装う。頭部、前胸の毛は灰白色、前胸背には黒色の立毛がまばらにまじる。体型は細型で円筒形。詳しい生態は不明であるが、倒木や立ち枯れに飛来する個体を見ることが多い。ほかの昆虫を捕食していると推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

比較的人手が入っていない樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島からの記録はなく、父島からも近年の記録がない。グリーンアノールによる捕食の影響により減少していると考えられる。

### 【関連文献】

中根猛彦, 1977; 黒澤良彦ら(編著), 1985.

(執筆: 岸本年郎)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラマルテントウダマシ

*Idiophyes boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
マルテントウダマシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 1.5~1.8mm。赤褐色。体型は丸く上翅に点刻列を持つ。前胸背の後縁は直線状で後縁に沿って横溝をそなえる。触角は 10 節で先端は棍棒状。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

湿潤な林床の土壌中に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

人為的にかく乱された樹林やアカギ、ギンネム、モクマオウなどの外来植物が優占する樹林には生息しない。

### 【関連文献】

Sasaji, H., 1978; 黒澤良彦ら(編著), 1985.

(執筆: 岸本年郎)



## オガサワラヒメテントウ

*Nephus boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
テントウムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長 1.4 ~ 1.7mm。黒色で上翅の後半部に 1 対の大きな赤紋を持つ。体型は楕円形で太短く体長は幅の 1.4 倍以下。体表には白色の毛をまばらに装う。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

かつては父島、母島の各地で記録されたが、詳細は不明である。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

近年の記録がないが、調査が不十分な可能性もあり、生息状況の把握が望まれる。

### 【関連文献】

Sasaji, H., 1982; 黒澤良彦ら (編著), 1985.

(執筆: 岸本年郎)



所蔵: 九州大学農学部

## オガサワラスジホソカタムシ

*Ascetoderes popei*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ホソカタムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

体長 3.0 ~ 6.2mm。紫赤褐色、触角は 11 節で先端 2 節が球桿部を形成し、第 10 節は 11 節より幅広い。前胸背板中央には凹穴構造があり、前角は鋭角に突出する。上翅の縦筋構造は明瞭で第 3、5、7 間室は細く隆起する。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

樹林内の立ち枯れした木の樹皮下に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島では減少している。その要因はグリーンアノールによる捕食の影響である可能性も考えられる。

### 【関連文献】

黒澤良彦ら (編著), 1985; 青木淳一, 2009.

(執筆: 岸本年郎)



©SEHU, Hokkaido Univ.

## ヘコムネホソカタムシ

*Neotrichius cavatus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ホソカタムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長 2.7 ~ 4.5mm。茶褐色で細型の平行な体型。前胸の側縁はほぼ平行で、背板中央に凹みを持つ。触角末端節は丸く、第 3 節は第 4 節の 2 倍程度の長さ。上翅の毛は太く、その根元は饅頭型の顆粒となっている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

樹林内の立ち枯れした木の樹皮下に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

2008 年に発見され 2009 年に記載された種で、これまで母島の 1 箇所のみから知られているのみである。生息状況の詳細は不明であるため、調査が望まれる。

### 【関連文献】

Aoki, J., 2009; 亀澤洋, 2011.

(執筆: 岸本年郎)



## ズグロヒメハナノミ

*Ermischella nigriceps*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)3mm。体は赤褐色で頭部は黒褐色、前胸はときに黄褐色、触角第3節は短くて幅と同長。色彩から小笠原産他種との区別は難しくない。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

様々な樹林に広く生息すると考えられる。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

外来植物が優占する樹林にアカギやギンネム、モクマオウなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、最大の生息地と考えられる父島と母島では産卵時にグリーンアノールに捕食されたため、激減してしまったと推定される。特に母島では最近の採集例は極めて少ない。

### 【関連文献】

Sugiura, S. et al., 2009a; Sugiura, S. et al., 2009b.



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆：高桑正敏)

## ボンヒメハナノミ小笠原諸島亜種<sup>※備考(p.472)</sup>

*Falsomordellistena formosana boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)3.7~5mm。体は赤黒色から黒色で前胸と上翅基部(特に肩部)、尾節板は赤褐色であることから、ほかの小笠原産ヒメハナノミ類とは容易に区別できる。名義タイプ亜種は台湾に分布する。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林を好むと推測される。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

最大の生息地と考えられる父島と母島では、湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、激減してしまったと推定される。特に母島では最近の採集例は極めて少ない。

### 【関連文献】

Sugiura, S. et al., 2009a; Sugiura, S. et al., 2009b.



©尾園 暁

(執筆：高桑正敏)

## ニセミヤマヒメハナノミ

*Falsomordellistena pseudalpigena*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)2.2~2.9mm、通常はニセチャイロヒメハナノミより小さい。体は全体が赤褐色から黒色、上翅は中央後方まで光沢のある細い黄色毛で密に覆われるが、会合部を除いた後方大部分は暗色毛に覆われる。成虫は日中、オガサワラビロウやマルハチなどの枯葉に潜む。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林が最適と思われる。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

最大の生息地と考えられる父島と母島では、湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、激減してしまったと推定される。特に父島と母島では最近の採集例は極めて少ない。

### 【関連文献】

Nomura, S., 1975; Sugiura, S. et al., 2009b.



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆：高桑正敏)

## ニセチャイロヒメハナノミ

*Falsomordellistena rosseoloides*

コウチュウ目(鞘翅目)

ハナノミ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)2.5~3.4mm。体は全体が黒色、上翅全体はやや光沢ある金色毛で覆われる。成虫は日中、オガサワラビロウやマルハチなどの枯葉に潜む。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林が最適と思われる。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

最大の生息地と考えられる父島では、湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、激減してしまったと推定される。最近の採集例は極めて少ない。

### 【関連文献】

Nomura, S., 1975; Sugiura, S. et al., 2009a.



© 尾園 暁

(執筆: 高桑正敏)

## ワタナベヒメハナノミ

*Falsomordellistena watanabei*

コウチュウ目(鞘翅目)

ハナノミ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)2.3~3.2mm、通常はニセチャイロヒメハナノミより小さい。体は全体が赤黒色から黒色、上翅は中央後方まで強い光沢のあるやや長い金色毛で密に覆われるが、会合部を除いた後方大部分は暗色毛。成虫は日中、オガサワラビロウやマルハチなどの枯葉に潜む。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

最大の生息地と考えられる父島と母島では、湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、激減してしまったと推定される。特に父島では最近の採集例は極めて少ない。

### 【関連文献】

Nomura, S., 1975; Sugiura, S. et al., 2009a.



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆: 高桑正敏)

## キンモンオビハナノミ

*Glipa asahinai*

コウチュウ目(鞘翅目)

ハナノミ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)6.5~8.5mm。上翅は黒地に3対の橙黄紋をもつことから、同属の他種と容易に区別できる。系統的にはワモンオビハナノミに近い。林縁や林内の葉上に飛来した個体が採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島と母島だけから知られるが、1976年の採集記録を最後に記録がない。湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、絶滅の危機に瀕していると推定される。

### 【関連文献】

高桑正敏, 1985; 苅部治紀ら, 2004.



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆: 高桑正敏)

## クロサワオビハナノミ

*Glipa kurosawai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)8.0~9.3mm。背面は黒色、上翅は中央に1対の大きな環状紋をもつが、前胸背が無紋な点で同属の他種と容易に区別できる。系統的にはサタオビハナノミにやや近い。成虫はシダ胞子を後食し、林内の葉上に飛来した個体が採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1976年に母島の湿性高木林で5個体が採集されただけである。湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、絶滅の危機に瀕していると推定される。

### 【関連文献】

高桑正敏, 1985; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 高桑正敏)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラオビハナノミ

*Glipa ogasawarensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)8.5~11.0mm。上翅は黒いが基半はチョコレート色の微毛で覆われ、中央と後方に各1対の白帯をもつ。系統的には奄美大島のクサカベオビハナノミに近い。林縁や林内の葉上に飛来した個体が採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島と母島だけから知られ、少なくとも1990年代後半以降の記録がない。湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、絶滅の危機に瀕していると推定される。

### 【関連文献】

高桑正敏, 1985; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 高桑正敏)



©SEHU, Hokkaido Univ.

## ニセキボシハナノミ小笠原亜種

*Hoshihananomia katoi boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)6.2~9.0mm。上翅には発達した4対の橙黄紋をもつことで、四国以南の名義タイプ亜種と容易に区別できる。本属にあって複眼に短毛を密生する点が特異的である。各種の花に飛来した個体が採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島と母島だけから知られるが、少なくとも1990年代後半以降の記録がない。湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、絶滅の危機に瀕していると推定される。

### 【関連文献】

Nomura, S., 1975; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 高桑正敏)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## クスイキボシハナノミ

*Hoshihananomia kusuii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)6.5~8.0mm。上翅には発達した3対の橙黄紋をもち、前胸背はオビハナノミ属状の紋をもつ点で他種と容易に区別できる。系統的にキボシハナノミやオオキボシハナノミにやや近い。各種の花に飛来した個体が採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島と母島だけから知られるが、少なくとも1990年代後半以降の記録がない。湿性高木林がアカギなどの外来樹種に優占されることで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、絶滅危機に瀕していると推定される。

### 【関連文献】

Nomura, S., 1975; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 高桑正敏)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## キムネキボシハナノミ

*Hoshihananomia ochrothorax*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)8.2~10.5mm。上翅には4対の光沢ある金紋をもち、前胸背に条紋を形成しない点で他種と区別できる。モモタマナはじめ各種の花に飛来した個体が採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

乾性高木林から湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島と母島での最近の記録はないが、属島では少数ながら生息が確認されている。父島と母島では、湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、激減してしまったと推定される。

### 【関連文献】

Nomura, S., 1975; 苅部治紀ら, 2004

(執筆: 高桑正敏)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラキボシハナノミ

*Hoshihananomia trichopalpis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)9.0~10.5mm。上翅中央後方の側方には本属にほぼ共通な紋以外にも1対の橙黄円紋をもち、ヤエヤマキボシハナノミの系統に含まれる。訪花習性もあるが、林縁や林内の葉上に飛来した個体が採集されている。コヤブニッケイへの産卵例がある。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

乾性高木林から湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島と母島での最近の記録はないが、属島では少数ながら生息が確認されている。父島と母島では、湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、激減してしまったと推定される。

### 【関連文献】

Nomura, S., 1975; 苅部治紀ら, 2004

(執筆: 高桑正敏)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラモンハナノミ

*Tomoxia relict*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

VU

環境省

EN

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)5.3~7.0mm。背面は黒、前胸背の黒紋は12個と多く、上翅の白紋はほぼ純白の毛で形成される。系統的にはモンハナノミにやや近い。林内の立ち枯木に飛来した個体などが採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

最近では兄島、弟島、母島でマレーズトラップにより少数が採集されているだけである。父島と母島では、湿性高木林にアカギなど外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されたために、激減してしまったと推定される。

### 【関連文献】

高桑正敏, 1985; Takakuwa, M., 2010b.

(執筆: 高桑正敏)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## ヨツモンハナノミ小笠原亜種

*Variimorda ihai boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)3.7~5.2mm。南西諸島の名義タイプ亜種とは、小型で尾節板がより細い点で区別できる。上翅の2対の縦紋のうち、後方紋はときに消失する。比較的明るい樹林内の林床や林内の葉上で見られる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

個体数の多い種だが、特に父島では最近の減少が目立つ。湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されることが危惧される。

### 【関連文献】

Nomura, S., 1975; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 高桑正敏)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラキンオビハナノミ

*Variimorda inomatai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)4.5~6.0mm。背面は黒、上翅は肩部が赤色、中央付近の金帯紋はジグザグ状、会合部に沿って後方へ伸びる。系統的にはキンオビハナノミ群に含まれる。林内空間の葉上に飛来した個体が採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島と母島だけから知られ、最近の記録もある。湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、父島と母島では産卵時にグリーンアノールに捕食されることで、絶滅状態に近づくものと懸念される。

### 【関連文献】

高桑正敏, 1985; Sugiura, S. et al., 2009b.

(執筆: 高桑正敏)



©尾園 暁

## ロミキンオビハナノミ

*Variimorda hiromiae*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島 EN

環境省 VU

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)4.0~5.3mm。背面はほぼ黒色だが、上翅は肩部が赤色、尾節板と触角、脚は黄褐色、上翅の金紋はオガサワラキンオビハナノミに似る。系統的にはマイキンオビハナノミとともに独特な群に含まれる。林内の葉上に飛来した個体が採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島だけから知られ、最近の記録もある。湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されることで、絶滅状態に近づくものと懸念される。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; Takakuwa, M., 2010a

(執筆: 高桑正敏)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## マイキンオビハナノミ母島亜種

*Variimorda maiiae shoui*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ハナノミ科

小笠原諸島 EN

環境省 EN

### 【形態・生態】

体長(上翅端まで)4.0~4.5mm。兄島の名義タイプ亜種とは、より黒化が著しく(特に♂)、尾節板が長い点で区別される。林内空間に設置されたマレーズトラップによって少数個体が採集されているだけである。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

よく発達した湿性高木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島だけから知られる。2005年にはじめて2個体が発見されたが、その後の調査でも1個体しか確認されていない。湿性高木林にアカギなどの外来植物が侵入することで生息環境が劣化するとともに、産卵時にグリーンアノールに捕食されることで、絶滅状態に近づくものと懸念される。

### 【関連文献】

Takakuwa, M., 2010a.

(執筆: 高桑正敏)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## マツムラカミキリモドキ

*Eobia matsumurai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリモドキ科

小笠原諸島 DD

環境省

### 【形態・生態】

体長10~13mm。全身黄褐色。頭部から上翅にかけての点刻は細かく弱い。詳しい生態は不明である。近年ライトトラップやマレーズトラップなどで少数が採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

近年実施されている調査でも、数回の発見例しかない。もともと少ない種である。

### 【関連文献】

Kôno, H., 1937; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラコバナカミキリ父島亜種

*Psephactus scabripennis chichijimensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長 9 ~ 22mm。体は黒色から黒褐色。名義タイプ亜種との区別点は、前胸背板の点刻が規則的に配置されること、上翅肩部の点刻がしわ状とならないことなどである。灯火採集やビーティングなどで採集されるが、詳しい生態は不明である。湿性林のシマホルトノキやモクタチバナなどの倒木で見られる。成虫は夜行性。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

湿性林にしか生息できないものと思われ、島内の分布はごく限定される。夜行性のため、グリーンアノールによる捕食の影響は今のところ軽微と考えられる。しかし、アカギなどの外来植物の侵入による生息地である樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

Kusama, K. et al., 1973; 大林延夫・新里達也(編), 2007. (執筆者: 苅部治紀)



## オガサワラコバナカミキリ名義タイプ亜種

*Psephactus scabripennis scabripennis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長 10 ~ 25mm。体は黒色から黒褐色。前胸背板の点刻は浅く、不規則。上翅の点刻は深く密で、肩の部分はしわ状になる。湿性林のシマホルトノキやモクタチバナなどの倒木で見られる。成虫は夜行性。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

湿性林にしか生息できないものと思われ、島内の分布はごく限定される。夜行性のため、グリーンアノールによる捕食の影響は今のところ軽微と考えられる。しかし、アカギなどの外来植物の侵入による生息地である樹林の衰退が本種の生存に悪影響を与えている可能性がある。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆者: 苅部治紀)



## オガサワラトビイロカミキリ

*Allotraeus boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長 12.5 ~ 18.5mm。体は暗赤褐色で黄白色毛を密生する。触角と脚はやや明るい赤褐色。各脚の腿節は強く膨らむ。食樹はコヤブニッケイ。成虫は夜行性。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島においてはグリーンアノールによる捕食の影響を強く受け、近年の記録を欠く。また、全域で外来植物の侵入により生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

Gressitt, J. L., 1937; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆者: 苅部治紀)



## クロモンヒメカミキリ

*Ceresium signaticolle*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

### 【形態・生態】

体長 10.5 ~ 13.5mm。体は黒色。頭部から上翅に黄色毛を持ち、前胸背板の中央部以外と小楯板では密生する。上翅の毛はやや密で、前胸背板のものよりも色が薄い。灯火採集やビーティングなどで採集される。ヒメツバキの花にも飛來する。食樹はムニンヤツデ、ギンネム、コヤブニッケイ。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

減少要因は不明だが、少なくとも父島では激減している。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆: 苅部治紀)



## チャイロヒメカミキリ

*Ceresium simile simile*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島 VU

環境省 VU

### 【形態・生態】

体長 11 ~ 18mm。体は黄褐色から黒褐色。前胸背板は虫食い状に点刻される。上翅は幅広い。灯火採集やビーティングなどで採集されるが、詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

近縁のヒメカミキリ類の多くが残存しているのに反して、本種は父島、母島ではほぼ絶滅状態と考えられる。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆: 苅部治紀)



## オガサワラトラカミキリ

*Chlorophorus boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

### 【形態・生態】

体長 9 ~ 11mm。体表の微毛の色が赤味がかかることにより、同属他種との区別は容易である。食樹は広葉樹。成虫はモモタマナなどの花に集まり花粉や蜜を食べる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

もともと記録が少ない種であったが、父島、母島においてはグリーンアノールによる捕食の影響を強く受け、近年の記録を欠き、絶滅した可能性が高い。また、外来植物の侵入により生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; Niisato, T. & H. Karube, 2007.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラキイロトラカミキリ

*Chlorophorus kobayashii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長 8.5 ~ 13.0mm。黄色の微毛に覆われており、やや赤味がかかる。上翅背面中央の黒横斑は近接し、ときに連続する。食樹は広葉樹。成虫はモモタマナなどの花に集まり花粉や蜜を食べる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

前種と比較すると普通に見られた種で、現在でも属島では健全である。父島、母島においてはグリーンアノールの捕食の影響を強く受け、近年の記録を欠き、絶滅した可能性が高い。また、外来植物の侵入により生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; Niisato, T. & H. Karube, 2007.

(執筆: 苅部治紀)



## ムコジマトラカミキリ

*Chlorophorus kusamai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

### 【形態・生態】

体長 10.1 ~ 10.5mm。近縁種のオガサワラトラカミキリとは体の背面の微毛が明るい緑灰色であることや黒帯があまり発達しないことなどで区別される。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

これまで賀島のみから記録されており、次種と異なり個体数も極めて少ない。賀島、媒島ともノヤギの食害によって生息地である樹林が著しく衰退している。早期に在来植物が優占する樹林を再生することが望まれる。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; Niisato, T. & H. Karube, 2007.

(執筆: 苅部治紀)



©尾園 暁

## ムコジマキイロトラカミキリ

*Chlorophorus masatakai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

### 【形態・生態】

体長 9 ~ 12mm。オガサワラキイロトラカミキリに似るが、体表の微毛の色が明るい緑黄色であること、黒斑が縮小傾向にあることなどで区別される。食樹はアカテツ。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

賀島、媒島ともノヤギの食害によって生息地である樹林が著しく衰退している。早期に在来植物が優占する樹林を再生することが望ましい。

### 【関連文献】

Niisato, T. & H. Karube, 2006; Niisato, T. & H. Karube, 2007.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## オガサワラチビトラカミキリ

*Perissus ogasawarensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長 9.1mm。キュウシュウチビトラカミキリやオキナワチビトラカミキリに近縁でよく似るが、触角第 4、5 節がほぼ同長であること、腹部第 8 節の窪みがより深いことなどで区別される。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1992 年に母島で枯木から羽化した 1 個体が知られるのみである。他種の現状から考えてグリーンアノールによる捕食の影響を受けている可能性も高い。属島に生息する可能性がある。

### 【関連文献】

Endo, K., 2000; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 国立科学博物館

## オガサワラムネスジウスバカミキリ

*Nortia kusuii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長 14 ~ 22mm。南西諸島と台湾に分布するムネスジウスバカミキリに近縁で類似するが、体表の毛の色がより白みがかかり、密に生えることで区別される。湿性林に生息し、食樹はモクタチバナなどで、枯木を食べる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

湿性林にしか生息できないものと思われ、島内の分布は極めて限定される。夜行性のため、グリーンアノールによる捕食の影響は今のところ軽微と考えられる。外来植物の侵入により生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆: 苅部治紀)



## オガサワラモモトコバナカミキリ

*Merionoeda tosawai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長 6 ~ 9mm。体は黒褐色から黒色で、腹部は赤褐色、中・後腿節の膨張部は黒褐色でそれ以外は黄褐色。前胸背板の背面に 1 対の大きな隆起を有する。上翅先端はとがる。♂は中脚跗節は外側に大きく伸長する。本土や南西諸島などに分布するニッポンモモトコバナカミキリと色彩以外の形態的相違は小さい。食樹はコヤブニッケイ。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島においてはグリーンアノールによる捕食の影響を強く受け、近年の記録を欠く。また、全域で外来植物の侵入により生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

苅部治紀・須田真一, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆: 苅部治紀)



## フタモンアメイロカミキリ名義タイプ亜種

*Pseudiphra bicolor bicolor*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長 4.5 ~ 7.0mm。体色に変異はあるが、体は黄褐色で、頭部、触角は黄褐色から黒褐色。前胸背板は長く、左右側面に黒褐色紋を持つ。上翅は黄褐色で点刻は深いが、先端に向かって弱くなり黒味がかかる。各脚の腿節基半部は黄褐色。食樹はコブガシ、ムニンネズミモチ。成虫はオオバシマムラサキの花などで採集されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

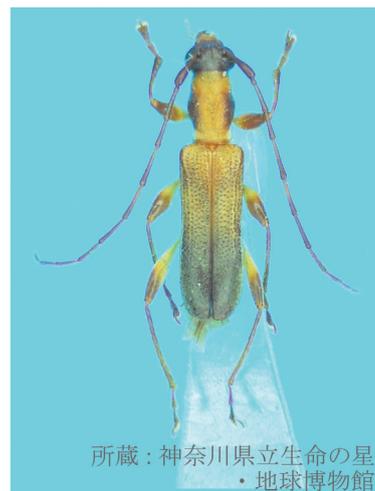
### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島においてはグリーンアノールによる捕食の影響を強く受け、近年の記録は極めて少ない。また、全域で外来植物の侵入により生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

日本鞘翅類学会(編), 1984; 大林延夫・新里達也(編), 2007。

(執筆者: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## フタモンアメイロカミキリ母島亜種

*Pseudiphra bicolor nigripennis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

### 【形態・生態】

体長 4.5 ~ 7.0mm。名義タイプ亜種とは、上翅の基部は黒味がかかり、前胸背板側面の黒紋が通常はない点で区別される。成虫はオオバシマムラサキの花などで採集されている。食樹はコブガシ、ムニンネズミモチ。体形や体色が毒のカンタリジンを持つオガサワラハイロカミキリモドキによく似ており、擬態している可能性がある。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島においてはグリーンアノールによる捕食の影響を強く受け、近年の記録は極めて少ない。また、外来植物の侵入により生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

日本鞘翅類学会(編), 1984; 大林延夫・新里達也(編), 2007。

(執筆者: 苅部治紀)



## オガサワライカリモントラカミキリ

*Xylotrechus ogasawarensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長 9 ~ 16mm。頭部・前胸背板は黒色。上翅は黒色で肩部付近が褐色から赤褐色となり、基部と先端の間およびそのやや先端寄りに黄白色から褐色の帯が2本あり、錨状の紋をなす。脚の腿節は赤褐色で脛節・跗節は黒色。食樹はアカテツやヤロードなど。成虫は訪花性がなく、立ち枯れした木につく。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島においてはグリーンアノールによる捕食の影響を強く受け、近年の記録は極めて少ない。また、外来植物の侵入により生息地である樹林や食樹の衰退が懸念されている。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007。

(執筆者: 苅部治紀)



## ミイロトラカミキリ

*Xylotrechus takakuwai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

EX

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長 11mm。特異的な体色により他種との区別は容易である。頭部は黒色。前胸背板は黒色の地に 3 対の黄色斑を持つ。小楯板は黄色。上翅は基部から 1/3 は赤褐色で、それから先は黄色帯が 3 対あり、それ以外は黒色。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

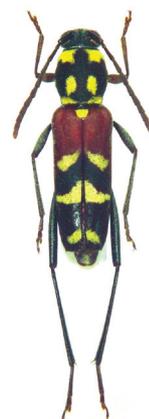
### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

これまでに 1976 年に母島で採集された 1 個体のみ知られている。不確実な情報を含めても数例しか記録がなく、すでに 30 年以上確認例がない。グリーンアノールによる捕食の影響、生息地への外来植物の侵入による生息環境の悪化により絶滅したものと判断される。

### 【関連文献】

Kusama, K., 1977; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 国立科学博物館

## オガサワラビロウドカミキリ

*Acalolepta boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長 13.0 ~ 26.5mm。体は褐色から赤褐色で、頭部と前胸背板は銀色の微毛に密に覆われる。前胸背板は不規則に深く点刻される。上翅の点刻も前胸背板も同程度に深い、ほぼ均一。食樹はムニンヤツデなどで、生木を食べる。夜行性。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する湿生林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

アガギなどの外来植物の侵入による生息地である樹林の衰退が、本種の生存に悪影響を与える可能性がある。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆: 苅部治紀)



## オガサワラゴマダラカミキリ

*Anoplophora ogasawaraensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

EX

環境省

### 【形態・生態】

体長 23.2mm。同属他種とは、上翅の斑紋が汚白色で小さく、微細な白色斑が散在することや前胸背板側縁の突起が大きいこと、上翅が先端付近まで厚みがあることなどで区別される。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1915 年に小笠原(島不明)で採集された 1 個体の記録しかなく、1976 年の原記載以降も記録がない。形態が特徴的で目立つ本種の記録がないということから、すでに絶滅したものと考えられる。

### 【関連文献】

Makihara, H., 1976; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 九州大学農学部

## ケズネオガサワラカミキリ

*Boninella anoplos*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島 CR

環境省 CR

### 【形態・生態】

体長 3.7 ~ 5.4mm。体は強い光沢のある暗黒褐色から黒褐色で、淡黄色、黄土色、黒色の軟毛が密に覆う。前胸背板側縁の小棘がある。後翅長は上翅長とほぼ同長かやや短い。脚の脛節には黒色剛毛が密に生え、白色の長軟毛が混じる。食樹は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

詳細は不明だが、減少している。その要因はグリーングリーンアノールによる捕食の影響である可能性が高い。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007。

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 森林総合研究所

## オガサワラカミキリ

*Boninella degenerata*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島 NT

環境省

### 【形態・生態】

体長 3.1 ~ 4.3mm。体は黒褐色から赤褐色で、淡黄色、黄土色、赤褐色、黒色の軟毛が密に覆う。黄土色の軟毛によって左右の上翅それぞれに2~3本の断続的な縦線が形成される。前胸背板の側面にとげはない。後翅長は上翅長の約4/5。食樹は幅広く、リュウキュウマツ、ムニンエノキ、シマグワ、コヤブニッケイ、ムニンヤツデなどが知られている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

詳細は不明だが、減少している。その要因はグリーンアノールによる捕食の影響である可能性が高い。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007。

(執筆: 苅部治紀)



## アラゲオガサワラカミキリ

*Boninella hirsuta*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島 CR

環境省 CR

### 【形態・生態】

体長 3.0 ~ 4.2mm。体は強い光沢のある赤褐色から黒色で、黄土色と黒色の軟毛が密に覆う。前胸背板と上翅では黄土色と黒色の軟毛が入り混じってまだら模様を成す。前胸背板の側方への膨らみは弱く、側面に小棘がある。後翅長は上翅長の約3/4。食樹は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

詳細は不明だが、減少している。その要因はグリーンアノールによる捕食の影響である可能性が高い。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007。

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 森林総合研究所

## ヒメオガサワラカミキリ

*Boninella igai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長 2.8 ~ 3.3mm。体は黒褐色から赤褐色で、白色と茶色の軟毛が密に覆う。前胸背板の側面にとげはない。後翅長は上翅長の0.5 ~ 0.6倍と短い。食樹としてシマシャリンバイが知られている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

詳細は不明だが、減少している。その要因はグリーンアノールによる捕食の影響である可能性が高い。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 森林総合研究所

## カメザワオガサワラカミキリ

*Boninella kamezawai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

EN

環境省

### 【形態・生態】

体長 4.0 ~ 6.4mm。体はやや光沢のある黄褐色から赤褐色で、淡黄色、黄土色、黒色の軟毛が密に覆う。前胸背板の側方への膨らみは強い。ケズネオガサワラカミキリに似るが、前胸背板側縁のとげがないこと、脚の脛節に長白毛がないことなどで区別される。食樹の詳細は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

詳細は不明だが、減少している。その要因はグリーンアノールによる捕食の影響である可能性が高い。

### 【関連文献】

Hasegawa, M. & N. Ohbayashi, 2009.

(執筆: 苅部治紀)



## ムコジマオガサワラカミキリ

*Boninella karubei*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

### 【形態・生態】

体長 3.0 ~ 4.4mm。体は明褐色から赤褐色で、淡黄色、黄土色、赤褐色、黒色の軟毛が密に覆う。後翅長は上翅長の約3/4。体色パターンはオガサワラカミキリに似るが、前胸背板側縁に小棘があることや♂のは交尾器の形状などで区別される。食樹としてウラジロエノキが知られている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

聳島では極めてわずかな記録しかない。媒島では在来植物が優占する樹林で比較的普通に見られるが、聳島、媒島ともノヤギの食害によって生息地である樹林が著しく衰退している。早期に在来植物が優占する樹林を再生することが望まれる。

### 【関連文献】

Hasegawa, M. & N. Ohbayashi, 2009.

(執筆: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## サトウオガサワラカミキリ名義タイプ亜種

*Boninella satoi satoi*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長 3.8 ~ 5.4mm。体は赤褐色から黒褐色で、黄土色と黒色の軟毛が密に覆う。黄土色の軟毛によって左右の上翅それぞれに 4 ~ 5 本の断続的な縦線が形成される。前胸背板の側面に小棘がある。後翅長は上翅長の約 0.8 倍。食樹としてリュウキュウマツ、シマグワ、コヤブニッケイ、ギンネムが知られている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

詳細は不明だが、減少している。その要因はグリーンアノールによる捕食の影響である可能性が高い。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; Hasegawa, M. & N. Ohbayashi, 2009.



(執筆: 苅部治紀)

## サトウオガサワラカミキリ母島亜種

*Boninella satoi masatakai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長 3.3 ~ 4.5mm。体は赤褐色から黒褐色で、黄土色と黒色の軟毛が密に覆う。名義タイプ亜種との区別点は、前胸背板側縁のとげが痕跡的であること、腹部第 8 背板の先端が裁断状でわずかに切れ込むことなどである。食樹としてリュウキュウマツ、シマグワ、コヤブニッケイ、ギンネムが知られている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

詳細は不明だが、減少している。その要因はグリーンアノールによる捕食の影響である可能性が高い。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 楨原寛ら, 2004.



(執筆: 苅部治紀)

## ケブカオガサワラカミキリ

*Boninella takakuwai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長 2.9 ~ 3.6mm。体は赤褐色から黒色で、白色と黒色の軟毛が密に覆う。前胸背板の側面にとげはない。後翅長は上翅長の約 1/2 と短い。同属他種とは、体の背面に長い立軟毛が密生することで区別される。食樹としてシマシャリンバイが知られている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

詳細は不明だが、減少している。その要因はグリーンアノールによる捕食の捕食である可能性が高い。

### 【関連文献】

Hasegawa, M. & N. Ohbayashi, 2009.



(執筆: 苅部治紀)

所蔵: 森林総合研究所

## キタジマモモトカミキリ

*Boninoleiops kitajimai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

DD

### 【形態・生態】

体長 12.5mm。体は黒色から黒褐色。前胸背板の側縁は鈍く突出する。詳しい生態は不明である。灯火に飛来した例があり、夜行性と考えられている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島から数例の記録があるのみで、詳細は不明である。

### 【関連文献】

Hasegawa, M. & H. Makihara, 2001; 榎原寛ら, 2004.

(執筆者: 苅部治紀)



所蔵: 森林総合研究所

## ヒゲシロアラゲカミキリ

*Bonipogonius fujitai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長 7.8 ~ 13.5mm。体は赤色から黒褐色で、黄白色の微毛が密に覆う。上翅の点刻は大きく密であるが、先端に向かうにつれ、小さくまばらになる。食樹は不明である。かつてはビーティングや灯火採集によって採集されていた。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

最近の確実な記録がない。グリーンアノールによる捕食の影響によって減少した可能性が高い。

### 【関連文献】

Kusama, K. et al, 1973; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆者: 苅部治紀)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

## ケハラゴマフカミキリ

*Mesosa hirtiventris*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長 15 ~ 17mm。前胸背板は左右側面に1つずつ隆起があり、背面にも3つ隆起を有する。♂の触角末端節の先端は湾曲する。食樹としてウラジロエノキ、ギンネム、ソウシジュなどが知られている。成虫は、幅広い広葉樹を寄主とするクスノアザコブタケを食べることが知られている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

属島では健在だが、父島、母島では激減もしくは地域絶滅が進行している。グリーンアノールによる捕食の影響の可能性が高い。

### 【関連文献】

榎原寛ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007.

(執筆者: 苅部治紀)



## オガサワラゴマフカミキリ

*Mesosa rufa*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

### 【形態・生態】

体長 12 ~ 23mm。体は赤褐色で上翅の中央部に暗褐色の斑紋がある。前胸背板は背面が平らで虫食い状に点刻され、側面に隆起がある。食樹としてオガサワラビロウおよびノヤシが知られており、葉柄を食べる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に植物が優占する対する脅威と保全上の留意点】

オガサワラビロウの枯葉内からの採集例が多かったが、近年父島では激減している。グリーンアノールの捕食の影響によって減少した可能性が高い。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007。



(執筆: 苅部治紀)

## オガサワラオオシロカミキリ

*Olenecamptus fukutomii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島 DD

環境省 DD

### 【形態・生態】

体長 20 ~ 28mm。体は赤褐色。前胸背板の側面に太い白色条を持ち、上翅の白色条とほぼ連続する。食樹としてシマイスノキが知られている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する乾性低木林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

兄島で枯木から羽化した1個体しか知られていなかったが、近年生態が明らかになった。兄島で稀に採集されているだけである。在来植物が優占する樹林への外来植物の侵入による悪影響が危惧される。

### 【関連文献】

Hasegawa, M., 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007。



©長谷川道明

(執筆: 苅部治紀)

## ケズネケシカミキリ

*Nobuosciades lanata*

コウチュウ目(鞘翅目)  
カミキリムシ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

### 【形態・生態】

体長 4.0 ~ 6.0mm。体は赤褐色から暗褐色。上翅の前半分の幅が直線的に狭くなる。同属他種との区別点は、上翅の点刻が明瞭なこと、各脚の脛節には長い軟毛が生えること、前胸背板側縁の突起が痕跡的なことなどである。食樹は不明で夜行性。ビーティングによって得られている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

同属のフタツメケシカミキリと比較すると、もともと記録が少ない種で、近年父島、母島では激減している。

### 【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 大林延夫・新里達也(編), 2007。



(執筆: 苅部治紀)

## オガサワラチビョウタンヒゲナガゾウムシ

*Notioxenus nakanei*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 1.7 ~ 1.8mm。体は黒色で緑光沢があり、背面は無毛で密な点刻に覆われる。前胸は上翅より長く、側縁と前縁は連続した弧を形成する。脚は茶色。詳しい生態は不明だが、本科の一般的な食性として、枯木、またはそれに生える菌類を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は6月に母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1978; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆者: 須田真一・雛倉正人)



## ホソノミヒゲナガゾウムシ

*Araeocerdes elongatus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 1.9 ~ 2.4mm。体は円筒型で黒褐色、細かい毛に覆われる。上翅の点刻列が基部付近で外側にそれる。詳しい生態は不明だが、本科の一般的な食性として、枯木、またはそれに生える菌類を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は6月に母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Senoh, T., 1984b.

(執筆者: 須田真一・雛倉正人)

No image

## オガサワラカギバラヒゲナガゾウムシ

*Xanthoderopygus ogasawarensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 2.3mm 前後。体は短い円筒型で黒褐色、白斑を散らす。脚は黄褐色。同属他種より眼が大きい。♂は腹部末端節が下を向く。詳しい生態は不明だが、本科の一般的な食性として、枯木、またはそれに生える菌類を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は7月に父島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Senoh, T., 1984a.

(執筆者: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## オガサワラキノコヒゲナガゾウムシ

*Euparius boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 6.0 ~ 7.4mm。体は円筒型で、黒色地に黄褐色斑がある。上翅の奇数間室の黄褐色の鱗片は、破線の縦縞状。詳しい生態は不明だが、本土に生息する同属の他種は、多孔菌を食べる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は、4、6月に母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1978; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## テングヒゲナガゾウムシ

*Japanthribus kusuii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 2.7 ~ 3.0mm。黄褐色地に黒斑があり、斑の発達状態に変異がある。♂は、吻が長く中央部で狭まり、触角第1節が極端に伸長して強く曲がる。菌食性。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

オガサワラビロウの枯葉に見られる。近年父島の記録はないが、属島では記録が多い。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Shibata, T., 1978; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## オガサワラクチボソヒゲナガゾウムシ

*Plintharia caliginosa*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 2.7 ~ 3.5mm。黒色地に黄灰色斑があり、上翅のそれは不鮮明な2横帯状。吻は長く、触角は♂で上翅端、♀で前胸後端に達する。伊豆諸島、南西諸島に同属の近似種がいる。詳しい生態は不明だが、本科の一般的な食性として、枯木、またはそれに生える菌類を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は、6月に父島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Shibata, T., 1980; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## オオカオジロヒゲナガゾウムシ

*Cedus insignis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 7.5 ~ 10.0mm。体は褐色で、吻は白く、小盾板の前と上翅の後半部に顕著な白斑がある。触角は♂で上翅端を越し、♀で上翅中央に達しない。詳しい生態は不明だが、本科の一般的な食性として、枯木、またはそれに生える菌類を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

湿性林のモクタチバナで採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Shibata, T., 1980; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆者: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## カオスジマダラヒゲナガゾウムシ

*Litocerus striatifrons*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 4.3 ~ 5.5mm。体は黒褐色で、同属他種より幅が広い。小盾板の後ろに、顕著な星型の黄斑があり、その内側は細長い黒斑となる。前胸背と上翅に細かい白点を散らし、脛節に2つの白色環がある。詳しい生態は不明だが、本科の一般的な食性として、枯木、またはそれに生える菌類を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は、5~7月に父島、母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Senoh, T., 1985.

(執筆者: 須田真一・雛倉正人)



© 東京農業大学

## アカマダラヒゲナガゾウムシ小笠原諸島亜種

*Litocerus tokarensis ogasawaranus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 10.5mm 前後。吻はやや長く、体は黒色地に黄褐色斑があり、上翅の紋は点刻列の細い黒筋により細かく分かれる。脚と触角も本科の種類としては細長い。屋久島、南西諸島に別亜種が分布する。詳しい生態は不明だが、本科の一般的な食性として、枯木、またはそれに生える菌類を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

湿性林に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Shibata, T., 1980; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆者: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## オガサワラコブヒゲナガゾウムシ

*Gibber ogasawarensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 2.9 ~ 4.2mm。背面には褐色と白の斑模様があり、上翅第3間室に2個のこぶを持つ。本土に同属の近似種がいる。詳しい生態は不明だが、本科の一般的な食性として、枯木やそれに生える菌類を食べるものと推測される。ギンネムの枯木から羽化脱出した例がある。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は、6~9月に父島、母島で採集されている。近年属島でも確認された。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981a; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## ギンボシメナガヒゲナガゾウムシ

*Phaulimia annulipes*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 2.5 ~ 3.0mm。体は褐色で複雑な斑模様があり、眼は長卵型で、前端が相接近する。上翅第3間室中央に、黒紋とそれに連続した白紋がある。近縁種が本土や南西諸島に分布する。詳しい生態は不明だが、本科の一般的な食性として、枯木、またはそれに生える菌類を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は、6月に母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981a; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## チビメナガヒゲナガゾウムシ

*Phaulimia minor*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ヒゲナガゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 2.4 ~ 4.0mm。体は褐色で複雑な斑模様があり、眼は長卵型で、前端が相接近する。上翅第3間室は不明瞭な斑状。近縁種が本土や南西諸島に分布する。詳しい生態は不明だが、本科の一般的な食性として、枯木、またはそれに生える菌類を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は6~7月に父島、母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981a; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## オガサワラホソミツギリゾウムシ

*Cyphagogus boninensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ミツギリゾウムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長 4.3mm。体は細い筒状で黄褐色。上翅中央前方に、1 対の不明瞭な黒斑がある。マツクイムシ用の誘引トラップで採集された♀ 1 個体のみが知られる。詳しい生態は不明だが、本土に生息する同属の他種は、枯木のクイムシの坑道に生息している。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は、7月に母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。同属他種と同様の生態ならばグリーンアノールによる捕食の影響は受けにくいと考えられる。

### 【関連文献】

Morimoto, K. & H. Kojima, 2005; 森本桂, 2008.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## ハハジマヒメカタゾウムシ

*Ogasawarazo mater*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島

EN

環境省

VU

### 【形態・生態】

体長 5.4 ~ 7.4mm。青色、緑色、灰色などの光沢がある鱗片で覆われるが、島ごとの色彩変異が大きい。眼の突出は弱く、上翅は垂心臓形で、全体の体形はくびれた幅広い紡錘形。5 ~ 6月の確認が多く、以後個体数は減少する。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

母島では激減した。属島ではヒメフトモモの若葉などから確認された。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。母島の個体群はグリーンアノールによる捕食の影響によって危機的な状況にある。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## ヒメカタゾウムシ母島亜種

*Ogasawarazo rugosicephalus hahajimaensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

CR

### 【形態・生態】

体長 5.4 ~ 7.4mm。青色または緑色の光沢がある鱗片で覆われる。眼は突出し、上翅は垂心臓形で、全体の体形はくびれた幅広い紡錘形。上翅の毛の長さは全体同様で、脚は暗褐色。5 ~ 6月に記録されている。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明であるが、同属の種と類似性があるものと推測される。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。母島の個体群はグリーンアノールによる捕食の影響によって危機的な状況にある。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## ヒメカタゾウムシ名義タイプ亜種

*Ogasawarazo rugosicephalus rugosicephalus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長 5.0 ~ 6.2mm。青色、緑色、灰色などの光沢がある鱗片で覆われる。眼は突出し、上翅は垂心臓形で、全体の体形はくびれた幅広い紡錘形。上翅の毛は周縁部で長く、脚は黄褐色。5 ~ 6月の確認が多く、以後個体数は減少する。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

父島では激減した。属島では現在も安定的に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。父島の個体群はグリーンアノールによる捕食の影響によって危機的な状況にある。

### 【関連文献】

Kôno, H., 1928; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 須田真一・雑倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## スジヒメカタゾウムシ

*Ogasawarazo lineatus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長 4.0 ~ 4.9mm。鱗片による灰白斑がある。上翅は卵形で、全体の体形は瓢箪状。伊豆諸島、南西諸島に近似種がいる。5 ~ 6月の確認が多く、以後個体数は減少する。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

父島、母島では激減している。属島では現在も安定的に生息する。海岸林のテリハハマボウや、海岸の草本上などで確認された。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。父島と母島の個体群はグリーンアノールによる捕食の影響によって危機的な状況にある。

### 【関連文献】

Kôno, H., 1928; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 須田真一・雑倉正人)



## チチジマクチカクシゾウムシ

*Buninus chichijimaensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長 3.9 ~ 4.1mm。前胸は前角が角ばった特有の凸の字型。上翅は幅より明らかに長く、全身黄褐色の鱗片に覆われる。小盾板を欠く。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は6 ~ 7月に母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雑倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## ハハジマクチカクシゾウムシ

*Buninus hahajimaensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長 3.9 ~ 4.2mm。前種に似るが、上翅が丸みを帯び、背面が盛り上がる。小盾板を欠く。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は6~7月に母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## イリエオガサワラクチカクシゾウムシ

*Buninus iriei*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長 3.8 ~ 4.3mm。前胸は前角が角ばった特有の凸の字型。上翅は幅と長さがほぼ等しく、全身黄褐色の鱗片に覆われる。小盾板を欠く。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は6月に母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## クロオガサワラクチカクシゾウムシ

*Buninus niger*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長 4.2 ~ 4.7mm。前胸は前角が角ばった特有の凸の字型。全身黒褐色の鱗片に覆われ、上翅中央後方に白斑がある。小盾板を欠く。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は6月に母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## セイノオガサワラクチカクシゾウムシ

*Buninus seinoi*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 4.9mm。前胸は前角が角ばった特有の凸の字型。地色は黒褐色だが、上翅に黄白色斑があり、前胸背も黄白色である。小盾板を欠く。詳しい生態は不明である。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は6月に母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## オガサワラシロクチカクシゾウムシ

*Euthyrhinus kojimai*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 6.0 ~ 8.4mm。全身灰白色の鱗片に覆われ、上翅基部は小盾板と第4間室の間が前に張り出す。伊豆諸島、南西諸島に同属の近似種がいる。カラスザンショウの枯死部からの採集例があり、枯木を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は3~9月に父島、母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## オガサワラオニゾウムシ

*Gasterocercus ogasawaranus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 5.7 ~ 10.6mm。地色は灰白色で、小盾板付近に逆さハの字型の黒斑がある。♂は前脚が発達する。詳しい生態は不明だが、本土に生息する同属の他種アシナガオニゾウムシは、エノキの枯木に集まる。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は4~9月に父島、母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## クロヤサクチカクシゾウムシ

*Metempleurus nigritus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 5.7～9.2mm。体は筒状で、黒色地に黄褐色斑がある。♂の吻は幅広い。伊豆諸島、南西諸島に同属の近似種がいる。詳しい生態は不明だが、枯木を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

近年、属島でも確認された。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## ツチイロヤサクチカクシゾウムシ

*Metempleurus ogasawarensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 6.1～8.5mm。前種に体形は似るが、褐色地に黒斑がある。伊豆諸島、南西諸島に近似種がいる。詳しい生態は不明だが、枯木を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

近年、属島でも確認された。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## クロオビヤサクチカクシゾウムシ

*Parempleurus nigronotatus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 5.5～8.7mm。体は紡錘形で、灰色地に黒い帯状斑がある。前胸は長さと同幅が等しい。伊豆諸島、南西諸島に同属の近似種がいる。詳しい生態は不明だが、枯木を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は、5～6月に父島、母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境改変は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## クロフヤサクチカクシゾウムシ

*Parempleurus nigrovariegatus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 4.6 ~ 5.5mm。体は紡錘形で、灰色地に黒斑がある。前胸は長さよりやや幅がある。伊豆諸島、南西諸島に同属の近似種がいる。詳しい生態は不明だが、枯木を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は、5、7月に父島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 1981b; 林匡夫ら(編著), 1984.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## ワタナベクチカクシゾウムシ

*Watanabezo unguiculatus*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 1.9 ~ 2.2mm。前胸が体の割に大きく、前方に向かって幅広くなる。褐色で粗い点刻に覆われ、脛節基部外側に鋸歯がある。リター層に生息し、腐植物を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

記載に使われた標本は7、9月に母島の樹林で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。生息環境からグリーンアノールの捕食の影響は受けにくいと考えられる。

### 【関連文献】

Morimoto, K., 2002.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## タコノキハモグリゾウムシ

*Phylloplatypus pandani*

コウチュウ目(鞘翅目)  
ゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 1.6 ~ 1.9mm。体は細い筒状で光沢がある。頭部と上翅の付け根・後半、腹は黒色、その他は橙色である。成虫、幼虫ともに、タコノキの葉肉組織に穿孔してこれを摂食し、繁殖も坑道内で行う。成虫は通年見られる。摂食された葉は、斑状の食痕として観察される。当初ナガキクイムシ科として記載されたが、その後の研究によりゾウムシ科に移された。

### 【分布の概要】

小笠原諸島; グアム島

### 【小笠原諸島における生息環境】

タコノキが自生している場所に生息する。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。生態的にグリーンアノールの捕食の影響は受けにくいと考えられる。

### 【関連文献】

Kato, M., 1998; 小島弘昭, 2008.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## クスイクイサビゾウムシ

*Dryophthorus kusuii*

コウチュウ目(鞘翅目)  
オサゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 3.4 ~ 3.5mm。体は細長く光沢の無い黒色、粗い点刻で覆われる。上翅の第 3、5 間室に毛に覆われた隆起条がある。詳しい生態は不明だが、枯木を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は 6 月に父島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

森本桂, 1983; Morimoto, K., 1985.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

## オガサワラキクイサビゾウムシ

*Dryophthorus ogasawaraensis*

コウチュウ目(鞘翅目)  
オサゾウムシ科

小笠原諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長 3.2 ~ 3.7mm。体は細長く光沢の無い黒色、粗い点刻で覆われる。本土に生息するスギクイサビゾウムシに似ているが、第 5、7 間室は合流しない。詳しい生態は不明だが、枯木を食べるものと推測される。

### 【分布の概要】

小笠原諸島

### 【小笠原諸島における生息環境】

不明である。記載に使われた標本は 5、6、9 月に父島、母島で採集されている。

### 【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生態が解明されていないため不明な点も多いが、生息地の人為的な環境変化は避けるべきであろう。グリーンアノールが生息する島では捕食の影響にも注意が必要と思われる。

### 【関連文献】

森本桂, 1983; Morimoto, K., 1985.

(執筆: 須田真一・雛倉正人)



© 日本産ゾウムシデータベース  
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>

### 【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は、岸本年郎による小笠原諸島昆虫目録(暫定版 ver.20091201)を基本とし、評価者の判断により修正を加えた。

### 【備考】 レッドリスト改定時における評価の根拠など補足情報

和名	備考
ボンヒメハナノミ小笠原諸島亜種	小笠原諸島産を亜種として認めない見解もある。

## 【関連文献】

- 青木淳一, 2009. ホソカタムシの誘惑 - 日本産ホソカタムシ全種の図説. 東海大学出版会. 194 pp.
- Aoki, J., 2009. A third species of *Neotrichius* (Coleoptera, Zopheridae) from Japan. *Elytra*, 37(1): 143-147.
- Endo, K., 2000. A new Cerambycid beetle of the Genus *Perissus* (Coleoptera, Cerambycidae) from the Ogasawara Islands, Japan. *Elytra*, 28(1): 193-196.
- 藤田宏, 2010. 月刊むし・昆虫大図鑑シリーズ 6 世界のクワガタムシ大図鑑. むし社. 480 pp. + 248 pls.
- Gressitt, J. L., 1937. New Japanese longicorn beetles, (Coleoptera: Cerambycidae). *Kontyû*, 11: 317-327.
- Hasegawa, M., 2004. Discovery of a new *Olenecamptus* (Coleoptera, Cerambycidae) from the Ogasawara Islands, Japan. *Elytra*, 32(1): 225-228.
- Hasegawa, M. & H. Makihara, 2001. Discovery of a new lamiine genus (Coleoptera, Cerambycidae) from Ogasawara Islands, Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 7(1): 71-75.
- Hasegawa, M. & N. Ohbayashi, 2009. A revisional study of the genus *Boninella* Gressitt (Coleoptera, Cerambycidae, Lamiinae). *Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology*, (7): 357-384.
- 林匡夫・森本桂・木元新作 (編著), 1984. 原色日本甲虫図鑑 IV. 保育社. vii + 438 pp.
- 細口政詞, 2000. オガサワラネプトクワガタの再検討. 月刊むし, (350): 24-25.
- 亀澤洋, 2011. 東京都のホソカタムシ科分布資料. 寄せ蛾記, (141): 9-14.
- 荻部治紀, 2009. 小笠原諸島における外来種が固有昆虫類に及ぼす影響とその緩和への方策. 地球環境, 14(1): 33-38.
- 荻部治紀・須田真一, 2004. グリーンアノールによる小笠原の在来昆虫への影響 (予報). 神奈川博調査研報 (自然科学), (12): 21-30.
- 荻部治紀・高桑正敏・須田真一・松本浩一・岸本年郎・中原直子・長瀬博彦・鈴木互, 2004. 神奈川県立生命の星・地球博物館が行った 1997-2003 年の調査で得られた小笠原の昆虫目録. 神奈川博調査研報 (自然科学), (12): 65-86.
- Kasahara, S., 1991. Three new carabid beetles from the Ogasawara Islands. *Elytra*, 19(2): 243-250.
- Kasahara, S. & M.Sato, 1990. The Japanese species of the genus *Morion* (Coleoptera, Carabidae). *Elytra*, 18(2): 185-191.
- Kato, M., 1998. Unique leafmining habit in the bark beetle clade: a new tribe, genus, and species of Platypodidae (Coleoptera) found in the Bonin Islands. *Annals of the Entomological Society of America*, 91(1): 71-80.
- Kishimoto, T., 1999a. Occurrence of the genus *Dictyon* (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae) in the Ogasawara Islands, with description of new species. *Elytra*, 27 (1): 207-211.
- Kishimoto, T., 1999b. An additional record of *Dictyon insulicola* Kishimoto (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae). *Elytra*, 27(2): 610.
- 岸本年郎, 2009. 地表性昆虫の現状とオオヒキガエルによる被害. 昆虫と自然, 44(6): 11-16.
- 小島弘昭, 2008. ゾウムシ研究の現状. 月刊むし, (443): 17-27.
- Kôno, H., 1928. Einige Curculioniden Japans (Coleoptera). *Insecta Matsumurana*, 2(4): 163-177
- Kôno, H., 1937. Neue und wenig bekannte Käfer Japans 2. Oedemeridae. *Insecta Matsumurana*, 11(4): 135-146.
- Kurosawa, Y., 1975. Additional notes on the genus *Chrysobothris* Eschscholtz from Japan and the adjacent regions (Coleoptera, Burprestidae). *Bulletin of the National Science Museum, series A (Zoology)*, 1(1): 67-75.
- Kurosawa, Y., 1977. Systematic position of the genus *Tamamushia* Miwa et Chujo (Coleoptera, Buprestidae) endemic to the Ogasawara Islands. *Memoirs of the National Science Museum*, (10): 163-169.
- Kurosawa, Y., 1985. Notes on the Oriental Species of the Coleopterous Family Buprestidae (IV). *Bulletin of the National Science Museum, series A (Zoology)*, 11(3): 141-170.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 (編著), 1985. 原色日本甲虫図鑑 III. 保育社. x + 500 pp.
- Kusama, K., H. Nara & Y. Kusui, 1973. Notes on Longicorn-Beetles in the Bonin Islands : Coleoptera: Cerambycidae. *Reports of Faculty of Science, Shizuoka University*, 8: 117-135.
- Kusama, K., 1977. Description of a beautiful new species of Clytini from the Bonin Islands (Cerambycidae). *Elytra*, 5(1): 17-18.
- Makihara, H. 1976. Description of a new species of *Anoplophora* from Ogasawara Islands (Coleoptera: Cerambycidae). *Bulletin of the Japan Entomological Academy*, 10(1): 9-12.
- 槇原寛・北島博・後藤 秀章・加藤徹・牧野俊一, 2004. グリーンアノールが小笠原諸島の昆虫相、特にカミキリムシ相に与えた影響 — 昆虫の採集記録と捕食実験からの評価 —. 森林総合研究所研究報告, 3(2): 165-183.
- 槇原寛・大平仁夫, 2005. 森林総合研究所所蔵の小笠原諸島のコムツキムシ類について. 森林総合研究所研究報告, 4(1): 53-64.
- 槇原寛・大平仁夫, 2006. 森林総合研究所所蔵の小笠原諸島のコムツキムシ類についての追加記録と 1 新種の記載. 森林総合研究所研究報告, 5(1): 93-97.
- 松本慶一, 2001. 小笠原諸島のオサムシ科甲虫. 東京都高尾自然科学博物館研究報告, (20): 19-23.
- 森正人・北山昭, 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版. 218 pp.
- Morimoto, K., 1978. The family Anthribidae of Japan (Coleoptera), Part1. *Esakia*, (12): 17-47.
- Morimoto, K., 1981a. The family Anthribidae of Japan (Coleoptera), Part4. *Esakia*, (17): 53-107.
- Morimoto, K., 1981b. Curculionidae and Rhynchophoridae (Coleoptera) of the Ogasawara Islands part1, Otiiorhynchinae and Cryptorhynchinae (1). *Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University*, 25(4): 175-199.
- 森本桂, 1983. キクイゾウムシ類概説 I. キクイサビゾウムシ類. 家屋害虫, (15/16): 29-36.
- Morimoto, K., 1985. Supplement to the check-list of the family Rhynchophoridae (Coleoptera) of Japan, with descriptions of a new genus and four new species. *Esakia*, (23): 67-76.
- Morimoto, K., 2002. *Watanabezo*, a new genus of the Cryptorhynchini (Coleoptera Curculionidae) from the Ogasawara Islands, Japan. *Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology*, (5): 447-452.

- 森本桂, 2008. ミツギリゾウムシ科研究入門 (1)― 概説と日本産の種 ―. 月刊むし, (443): 4-16.
- Morimoto, K. & H. Kojima, 2005. Three additional species of Brentidae (Coleoptera, Curculionoidea) to the fauna of Japan. *Elytra*, 33(1): 126-133.
- 中根猛彦, 1977. 小笠原諸島に分布する一部の甲虫類について (新種記載を含む). 国立科学博物館専報, (10): 147-162.
- Nakane, T., 1979. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXX. *Reports of the Faculty of Science, Kagoshima University*, (12): 51-60.
- Nakane, T., 1987. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XXXIX. 宮崎産業経営大学社会科学論叢,
- 日本鞘翅類学会 (編), 1984. 日本産カミキリ大図鑑. 講談社. 565 pp.
- Niisato, T. & H. Karube, 2006. A new *Chlorophorus* (Coleoptera, Cerambycidae) from Muko-jima Island of the Ogasawara Islands. *Elytra*, 34(1): 221-222.
- Niisato, T. & H. Karube, 2007. Additional records of clytine species (Coleoptera, Cerambycidae) from Ogasawara Islands (3) Revised notes on the *Chlorophorus* species from Muko-jima islands. *Elytra*, 35(1): 205-215.
- Nomura, S., 1975. Mordellidae of the Bonin Islands (Coleoptera). *Entomological Review Japan*, 28: 29-45.
- Ôhara, M., 1994. A revision of the superfamily Histeroidea of Japan (Coleoptera). *Insecta Matsumurana, New Series*, 51: 1-283.
- 大林延夫・新里達也 (編), 2007. 日本産カミキリムシ. 東海大学出版会. 818pp.
- Ôhira, H., 1974. New or little known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XVIII. *Kontyû*, 42(1): 24-28.
- Ôhira, H., 1978. New or little known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XXIII. *Kontyû*, 46(4): 552-556.
- 大平仁夫, 1996. 日本産アシブトコメツキ類について. 越佐昆虫同好会報, (76): 1-14.
- 大平仁夫, 1998. オガサワラヒラアシコメツキについて. 月刊むし, (326): 17-19.
- Ohmomo, S. & H. Karube, 2004. On a new subspecies of *Tamamushia virida* Miwa and Chujo, 1935 from the Ogasawara Islands. *Research Report of the Kanagawa Prefectural Museum, Natural History*, (12): 87-88.
- Sasaji, H., 1978. Notes on the Japanese Endomychidae, with an establishment of a new subfamily (Coleoptera). *The Memoirs of the Faculty of Education, Fukui University. Series II (Natural Science)*. 28(pt. 1): 1-31.
- Sasaji, H., 1982. Additions to the Japanese fauna of the coccinellid tribe Scymnini (Coleoptera). *Special Issue to the Memory of Retirement of Emeritus Professor Michio Chujo*: 63-72.
- Senoh, T., 1984a. A revision of the genus *Deropygus* Sharp in Japan, with descriptions of a new genus and five new species (Coleoptera, Anthribidae). *Transactions of the Shikoku Entomological Society*, 16(3): 25-40.
- Senoh, T., 1984b. Two new species of the genus *Melanopsacus* (Coleoptera, Anthribidae) from Japan. *Bulletin of the National Science Museum, series A*, 10(2): 79-85.
- Senoh, T., 1985. Description of a new species of the genus *Litocerus* Schoenherr from the Islands of Ogasawara, Japan. *Transactions of the Shikoku Entomological Society*, 17(1/2): 75-77.
- Shibata, T., 1978. Studies on Japanese Anthribidae IV. (Coleoptera). *The Entomological Review of Japan*, 31(1/2): 93-101.
- Shibata, T., 1980. Studies on Japanese Anthribidae V. (Coleoptera). *The Entomological Review of Japan*, 34(1/2): 39-45.
- Sugiura, S., T. Tsuru, Y. Yamaura & H. Makihara, 2009a. Small off-shore islands can serve as important refuges for endemic beetle conservation. *Journal of Insect Conservation*, 13: 377-385.
- Sugiura, S., Y. Yamaura, T. Tsuru, H. Goto, M. Hasegawa, H. Makihara & S. Makino, 2009b. Beetle responses to artificial gaps in an oceanic island forest: implications for invasive tree management to conserve endemic species diversity. *Biodiversity and Conservation*, 18: 2101-2118.
- Suzuki, W., 2002. New record of *Subprotelater hisamatsui* (Coleoptera, Elateridae) from Otouto-jima Island of Ogasawara Islands, Japan. *Elytra*, 30(1): 190-191.
- 高桑正敏, 1985. 小笠原のハナノミ族について. 月刊むし, (176): 4-11, 1pl.
- Takakuwa, M., 2010a. Two unexpected new species of the genus *Variimorda* (Coleoptera, Mordellidae) from the Ogasawara Islands. *Elytra*, 38(2): 193-200.
- Takakuwa, M., 2010b. Additional records of the Ogasawaran endemic *Tomoxia relictata* Takakuwa (Coleoptera, Mordellidae). *Elytra*, 38(2): 284.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 (編著), 1985. 原色日本甲虫図鑑II. 保育社. viii + 514 pp.